

校園名：東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校

所在地：〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8 電話番号：050(5525)2406・2407
記載日：平成28年5月27日 記載者：鈴木芳明 記載者役職：副校長

世界に通用する音楽家を育成するための 強力な高大連携の教育システム

1. 高大連携教育のパイオニア

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校（藝高）が設立されたのは、戦後復興が進んだ昭和29年（1954）です。世界に通用する音楽家を育成するためには、音楽の早期専門教育が必要であるという関係者の強い願いが実り設立されました。設立当初、大学の先生方が手弁当で附属高校の教育に当たったところから出発したと言われています。

2. 洋楽教育と邦楽教育

作曲と器楽（ピアノ・弦楽器・管打楽器）で始まった専攻には、平成11年（1999）から邦楽が加わりました。学年定員40名1クラスの中に、洋楽専攻と邦楽専攻の生徒たちが仲良く混在して勉強しています。国内で、西洋音楽と邦楽の専攻をともに擁する音楽高校は、本校のみの特色です。

3. 質の高い優れた音楽の専門科目授業

(1) 大学教員による授業

平成7年（1995）に、校舎が設立時の御茶の水から、大学のある上野へ移転して20年余が過ぎました。大学に隣接する立地を十二分に生かして、専攻実技のレッスンのみならず、オーケストラ、室内楽、合唱、副科打楽器等の授業では、大学と密接に連携して教育がなされています。より高度な音楽教育が高大連携のもとに研究され、指導計画や指導方針が決められていきます。大学の教員から、高校生が直接指導を受けることができることが、本校の最大の魅力であり、本校の教育の質の高さでもあります。

(2) 大学と附属高校教員による合同授業

ピアノ初見アンサンブル、ソルフェージュ、聴音等の授業では、大学のソルフェージュ科の教員と本校の教員が合同で授業を行っています。三学年の生徒をグレード別に分けて、高大7年間を見据えた質の高い授業が行われています。

4. 専門性を支える音楽教育の充実

(1) 副科実技の授業ー副科声楽・副科ピアノ・副科打楽器ー

副科の授業では、ピアノ専攻生は副科声楽の授業を、ピアノ専攻以外の洋楽専攻生は、副科ピアノの授業を受けることが必修になっています。また邦楽専攻生の副科ピアノの授業は希望制になっています。その他、希望者にはさらに2年次から2年間、副科声楽、または副科打楽器のいずれかが選択できるようになっています。

(2) 音楽科目授業ー音楽史、音楽理論、演奏研究、ソルフェージュ

実技科目以外の音楽関連科目としては、音楽史、音楽理論、演奏研究、ソルフェージュ等の授業があります。音楽史においては、演奏曲目や作曲家の歴史的な背景や音楽史的位置づけを学び、さらに音楽理論では、定期演奏会等の演奏曲目も教材として用いながらその曲の成り立ちや構成、和声分析等について学びます。また、邦楽専攻の生徒は日本音楽史、日本音楽理論を学びます。演奏研究は、理論と実際の演奏を結びつける役割の科目で、旋律法や音律、フレーズやアーティキュレーション、リズム等を学習します。ソルフェージュでは、視唱、リズム、読譜、聴音の各分野にわたって音楽の基礎を学んでいきますが、専攻実技に活かされるソルフェージュをめざしています。

このように、音楽を多角的な方面から学びを深め、総合的に楽曲をとらえた上で実際の演奏に生かしていくというのが、本校の音楽教育の大きなねらいです。

5. 大学の授業への参加

(1) 管打楽器専攻

平成 25 年(2013)度より、フルート専攻を除く管打楽器専攻の生徒が、大学の木管・金管合奏と管打合奏の授業へ参加することが認められました。これは少人数制の本校では、特に金管専攻の生徒が、なかなか室内楽や吹奏楽が組めないことを心配して、大学側からご提案いただいたものです。こうして、高校生の身分でありながら、大学生と一緒に授業が受けられる画期的なカリキュラムが生まれました。

(2) 英語の授業

平成 28 年(2016)度より、スーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受けた本校は、グローバル・リーダーに必須である外国語教育においても、緊密な高大連携を推進していきます。大学の言語・音声トレーニングセンターの英語の授業に、高校生も参加できるようになりました。

6. スーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定校

平成 28 年(2016)度より、文部科学省から平成 28 年度スーパーグローバルハイスクール (SGH) の指定を受けました。この事業は、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図るもので、芸術系高校では本校が唯一の指定校です。藝高は、これから 5 年間のさまざまな取り組みを通して、平成 26 年度にスーパーグローバル大学に採択された東京藝術大学との強い連携のもとに、より一層の充実と発展をめざします。

7. 伝統文化の継承と異文化交流の促進 (様々な演奏会の実施)

(1) 教育成果披露のための演奏会

本校では、毎年恒例の 3 年生の公開実技試験、2 年生の演奏修学旅行、全校生徒による定期演奏会、アカンサス・コンサート (年 4 回)、北区文化振興財団との連携事業のほか、近年はパリのユネスコ本部での演奏会 (2008 年)、中国の中央音楽学院・上海音楽学院との交流演奏会 (2010 年、2012 年) といった国際交流事業にも積極的に取り組んできました

(2) 国内外における文化交流のための演奏会

昨年秋には、初の海外 (台湾) での演奏修学旅行も実現しました。スーパーグローバルハイスクール指定により、国際交流や音楽の早期教育にかかわる本校の重要性はさらに高まると考えられます。今後も、将来、国際的に活躍するグローバル・リーダーや、日本の音楽文化の中核となる人材の育成をめざして、本校の教育成果をさまざまな形で国内外に発信することに努めます。

(3) 地域連携のための演奏会

本校は、北区文化振興財団と連携して、地域振興のために、「輝く☆未来の星アカンサスコンサート」を年 3 回行っています。この連携事業は、平成 28 年(2016)度で 9 年目を迎えます。年 3 回の演奏会の内 2 回は、本校単独で行っている室内楽演奏会です。1 回は、北区の小学校と中学校とのジョイントコンサートです。このジョイントコンサートでは本校は、定期演奏会でも披露するオーケストラ曲 2 曲を演奏します。

(4) 高大連携教育による演奏会と公開レッスン

その他の演奏会としては、授業の成果を公開する演奏会として、室内楽演奏会とピアノ初見アンサンブル演奏会をそれぞれ年 1 回ずつ行っています。

また、国際的に著名な演奏家による公開レッスンも随時行われています。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校 特色ある取組

～世界で活躍する音楽家を育成するための強力な高大連携教育システム～

音楽学部

◆大学教員による授業

専攻実技レッスン、オーケストラ、室内楽、合唱、副科打楽器



◆大学教員と附属高校教員による合同授業

ピアノ初見アンサンブル、ソルフェージュ、聴音



◆教育実習

◆大学授業への参加

管打楽器室内楽授業(単位化)



◆SSP(スペシャルプログラム)の活用

- 特別カリキュラム・サポート等
- 学部3年間での早期卒業プログラム
- 個人レッスンの時間の倍増
- 海外一流演奏家による特別レッスン
- 海外一流音楽大学への留学機会付与 等

高校2年生
飛び入学

国際舞台で躍
する傑出した
音楽家の育成

附属音楽高等学校

音楽の早期専門教育

質の高い専攻実技

→ 作曲、ピアノ、弦、管・打、邦楽



専門性を支える副科実技

→ 副科ピアノ、副科声楽

知性と教養を育む総合的な音楽科目

→ 音楽理論、演奏研究、音楽史、鑑賞研究、楽典、一般教科

体験学習

→ 春季二重奏合宿、オペラ・古典鑑賞教室、スキー教室

伝統文化の継承と異文化交流の促進 (様々な演奏会の実施)

- 教育成果披露のための演奏会
 - 公開実技試験、定期演奏会、アカンサスコンサート
- 国内外における文化交流のための演奏会
 - 演奏修学旅行、ユネスコ平和祈念コンサート、中日青少年交流演奏会
- 地域連携のための演奏会—北区文化振興財団との連携
 - 輝く☆未来の星コンサート
- 高大連携教育による演奏会
 - 室内楽演奏会、ピアノ初見アンサンブル演奏会
- 公開レッスン
 - 国際的に著名な演奏家によるレッスン

